

Produced By

SagaMachi 学生Club

君が見る、明日の町田駅

ま

ちだの駅前がもっと便利に

ちよつどよい暮らしができるまち

だから今、取り組む駅前再開発

のんびりしてたら取り残される

みんなで描く将来像

ライバルは町田自身

いまを過ごす大学生が望む町田の未来



さがまち学生Club とは...

さがまち学生Clubは、相模原市と町田市で街づくりに **つながる** 活動を行っています。

フィールドワークや取材を通じて地域の魅力を引き出し
情報を発信しています

一人一人の **ひらめき** が鍵をにぎる、
学生主導型体験プロジェクトです。



これからのまちだ

みなさま、初めまして。
私は青山学院大学三年生で「さがまち学生CUBO」に所属するりかこと申します。今回は町田駅周辺の都市開発に関する調査を行い、当記事を作成いたしました。ぜひご覧ください！

はじめに

横浜線と小田急線の二路線が通っており、毎日たくさんの方々が訪れる町田駅では、近年建物の老朽化が目立つようになっていきます。

それに加え駅周辺が十分に整備されておらず不便なところも目立ってきています。その一例が映画館です。町田駅の一日の利用者数はおよそ五・八万人であるにも関わらず映画館が無

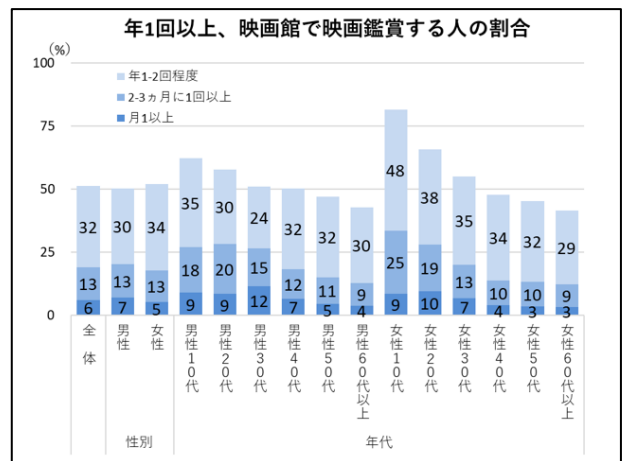
いのです。近くに映画館がないというのは生活する上で少し不便ですよね。他にも町田駅周辺には多くの課題が残されています。それらの課題解決に向け、町田市が動き出しているのをご存知でしょうか。

その名も、「町田駅周辺開発推進計画」です。

今回は、この計画について深掘りしていきます♪

① 映画館

映画館の利用需要は高く、二〇二三年の調査では、年一回以上映画館で映画鑑賞する人は五・三パーセントであると明らかになりました。(Press Walker KITT 株式会社)



サブスクリプションが普及する現代ですが、未だに大迫力のスクリーン、音響を楽しみたい人がたくさんいることがわかりますね。そんな中で今回の計画では、町田駅周辺に映画館の建設が予定されています。私自身もよく映画館へ行くので町田駅周辺にできたらとても嬉しいです。



これからのまちだ

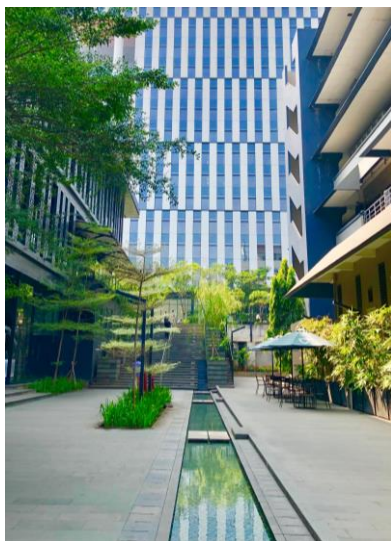
② 音楽ホール

次は町田にないものその二、ライブホールの建設です。様々な用途で用いられるライブホールができることによって「町田で」できることが格段に増えます。それによって新たな交流の場となり、駅利用のみならず、まちなかに出ていく人の増加が見込まれます。

③ 緑のある街づくり

町田の中で緑があるところと言われて、パツと思いつく人は少ないのではないかなと思います。緑の少なさは駅周辺の課題の一つであるため、広場などの多くの方が憩える緑空間の整備が予定されています。お店に行くほどではないけど知人や家族と話したいという方にはうってつけの場所に

なるのではないでしようか！緑があるだけで落ち着くことができるので自然は重宝されそうですね。



最後に

皆さん、未来の町田を想像できましか？このように町田市は都市づくりに向けて、

- ・ 駅前空間の魅力向上
- ・ 水と緑の新たな都市空間づくり

などを掲げています。

他にも、快適便利な交通ターミナルの建設などたくさん大きな変化が起こる予定です。気になった方は是非QRコードから詳しい内容を見てみてくださいね。これからの町田駅の変化がとても楽しみです！

つくってみて

将来、映画館や交流の拠点ができれば町田駅が盛り上がり、より便利でにぎやかな街になると感じました。今後も当事者意識をもって街づくりに関わっていきたいと思います。



リンク先：町田市HP
「町田駅周辺開発推進計画」



Written by リかこ

町田駅周辺で進む大改造計画とは!?

実際にまちを歩いて感じたこと、考えたこと

はじめに

みなさま、初めまして。私は鹿児島県出身、桜美林大学一年生で「さがまち学生CUN」に所属するひろまさと申します。町田駅はよく買い物などで出かける際に利用します！今回は町田駅周辺の都市開発に関する調査を行い、当記事を作成いたしました。ぜひご覧ください！

町田駅周辺開発推進計画

町田駅周辺開発推進計画とは、町田市が進める町田駅周辺を再整備し、更に多様な魅力を持つまちへと変換していくことを目指した再開発計画のことです。



この計画では、町田駅周辺をA、B、C、Dの4つの地区に分け、用途に合わせて再開発を行う予定です。具体的には、ライブホール、交通

ターミナル、エンターテインメント施設（映画館等）緑地広場などの整備が検討されており、その再開発の規模は近隣地域と比較しても類を見ないほどの大規模なものとなっております。

再開発の背景

この再開発が計画された背景には、単に駅周辺施設の老朽化だけではなく、周辺地域の動向も関係しています。

立川駅、橋本駅など町田近辺の街が大規模再開発を推進しており、「商業拠点としての町田」という優位性を失いつつあります。

また、多摩都市モノレールの町田方面延伸計画も始動しており、交通基盤の再整備が求められつつあります。

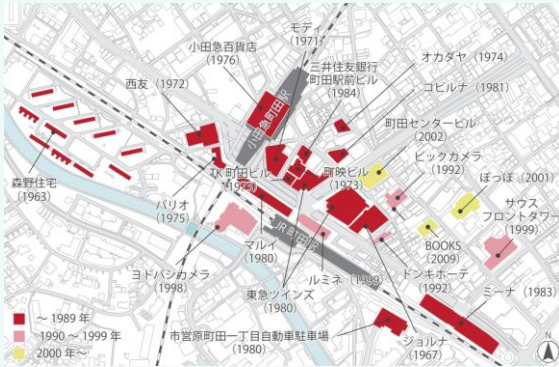
さらに、首都直下型地震、南海トラフ巨大地震をはじめとした、巨大地震や台風や洪水などの気象災害のリスクが懸念視される中で災害に強いまちづくりも大変重要になってきています。

また、外国人観光客に人気の高い訪問先である湘南・鎌倉、高尾山、箱根・富士山方面などと都心を繋ぐ観光の拠点として、ハブ機能を強化

することが求められている現状にあります。そのような状況も鑑み、町田駅周辺を一新する再開発計画が進められています。

古さが目立つ町田駅

町田駅周辺における主要な施設の竣工年



現代の町田駅周辺の大部分は、約50年前の大規模開発によって作られたものであり、非常に古い造りが目立ちます。

その最たる例として挙げられるのが、エレベーター、エスカレーター

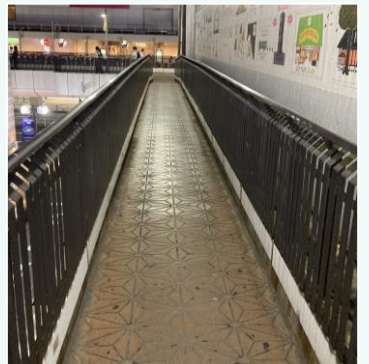
です。町田駅と同規模駅である八王子駅では駅前にエレベーターが設置されており、他にも、近隣の駅である橋本駅では、エレベーターだけではなくエスカレーターも設置しており、高齢者や車いすの方へ負担が少ないバリアフリー化が進んでおります。

しかし、町田駅ではエスカレーターの設置が進んでおらず、エレベーターの数も少ないため周辺地域の主要駅に比べてバリアフリーという面で後れを取っている状況にあります。

また、町田駅周辺の建物は、古い造りが目立ち、現代のビル等に比べてガラスを多用していないかったり、建物の壁が単調だったりするため、非常に圧迫感を感じてしまいます。



町田駅周辺の風景。圧迫感があり閉鎖的なだけでなく、老朽化が進んでおり、災害対策等も十分とは言えない。緑化も進んでおらず、非常に殺風景。



道幅も狭く、バリアフリー化が進んでいないため、非常に不便な状態。



デッキの下は暗く、あまり綺麗ともいえない。



大きな広場がなく、待ち合わせ場所に困る。また、災害時の一次避難場所が不足しているともいえる。

緑化が進んでいる立川駅

立川駅は町田駅同様、駅前には広場等のスペースはないものの、通路幅に非常にゆとりがあります。

そして、駅前では町田駅周辺では見られない植物等が多数存在します。

また、立川駅の近くにオープンした複合型施設のGREEN SPRINGSは多様な植栽やビオトープがありその周辺は猛暑の中でも涼しく、立川が緑化という点で成功している街の一つと感じます。



立川駅の近くにオープンした複合型施設のGREEN SPRINGS

視認性の良い八王子駅

八王子駅は、町田駅と同様、多摩地域を支える大規模な駅で、街としての条件も町田と非常に類似しています。

八王子駅も町田駅同様、駅前に大きな広場はありません。しかし、西放射

線ユーロードという歩行者専用の通りがあり、駅からの視認性も良く、

街路樹等も植えてあるほか、公園などもあり、町田のような市街地における視認性を保つためのモデルケースともいえるのではないのでしょうか。

景観の悪さは拡散力の悪さ

近年のSNSでは「映え」を非常に重要視する傾向にあります。映えとは、他者に共有したいほど、綺麗なもの（この場合景観）の事を指します。

つまり、映えるものほど、SNSで拡散され、場合によっては被写体の強力な宣伝効果に繋がります。

即ち、景観の良い映える街はSNSでどんどん拡散されるが景観の悪い街はSNSで大して拡散されず、宣伝力が劣ってしまいます。

そしてそれは、知名度やブランド力に直結するため、非常に致命的なものとなり、景観の悪い街が競り負ける可能性が上がってしまいます。

災害大国だからこそ景観を

我が国は災害大国であり、常に地震や火災、洪水などのリスクにさらされています。

もし、景観が悪く周りを見通すことが出来ない場所では災害が起きたらどのようなことが考えられるのでしょうか？

まず、全体を見通すことが出来ない為、どこに行けばいいのかわからず、市民が避難する際に混乱することが予想できます。更に、町

田駅周辺のように、通路が狭く一時的に避難できるような広場がないと群衆雪崩が発生するリスクもありません。

災害大国といわれる日本だからこそ、このような二次被害を防ぐために、景観を良くし、通路と広場を整備することが非常に重要になります。

町田駅にランドマークを

私は、この記事を書くにあたって町田の他に、立川、国分寺、橋本、八王子など町田周辺の主要な駅を視察しました。

そのよう中で、町田を含む周辺の主要駅にはランドマークが欠けていることに気付きました。ランドマークとは、その地域の代表的な建物の事で、その地域のブランディングに大きな影響を与えます。

具体例を出すと浅草⇨雷門、東京⇨スカイツリー、京都⇨金閣寺、と言った様にランドマークがあると、その地域に何があるのか、どのような地域なのか、がなんとなく想像ができ、ランドマークがない地域との差別化に繋がります。

周辺の主要駅がランドマークを擁していない中、再開発の一環として町田駅周辺に特徴的なランドマークを建設すれば町田のブランディングにもつながり、集客という面で見ても大変効果的なのではないでしょうか。

何故緑化が重要なのか

緑化というのは、再開発という事業

と正反対に位置するものともいえ、これの必要性に疑問を持つ方もいるかもしれませんが。しかし、私はこの緑化というものが再開発を成功させるにあたって非常に重要なものだと考えます。

近年の日本では温暖化の影響で、夏場には猛暑が続いております。

これは、暑さにあまり耐性のない地域からの観光客には身体的に負担になります。

それは町田への観光のハードルを上げ、結果的に集客の足枷になると考えます。

そのよう中で、町田駅周辺を緑化すれば、植物が日陰を作り、直射日光や暑い外気を吸収することにより気温上昇を抑えられ駅周辺での観光等が非常に快適なものになり、「暑さ」というハードルの解消に繋がると考えます。

災害対策からみる再開発

また、現状の殺風景で圧迫感のある町田駅周辺の景観の改善の一助にもつながるのではないのでしょうか。

町田市というのは、地理的に特徴的な場所に存在し西に富士山、南に鎌倉、北東に東京都心部があります。

そのため、これらの人気な観光地をつなぐ重要な交通結節点として機能しています。

しかし、見方を変えればこれは重要な防災拠点として機能し得るのではないのでしょうか？

なぜなら、都心部は首都直下型地震鎌倉は南海トラフ巨大地震、富士山は富士山大噴火と、それぞれ大災害のリスクを抱えており、これらが発生すれば大量の避難民が発生します。そして、被災地域に救援に行くための関係車両や支援物資を届ける輸送車で交通の混乱が発生することが予想されます。

そのよう中で、町田が被災地域を中継する交通・防災拠点として機能すれば迅速な対応が可能となり早期復興につながるのではないのでしょうか？

そのため、この再開発計画で町田駅の駅機能を更新し、分散していた交通機能を集約・整備するのは町田駅のみならず、大災害対策の布石となりえるため、日本国というスケールで見ても非常に価値のある計画と言えるわけです。

やがて

町田はその地理的要因から、東京二十三区や横浜など規模の大きい街と競争を強いられる非常に厳しい環境にあります。

そのような中でも負けずに発展を遂げてきたからこそ、「商業都市町田」として非常に大規模な街に成長したのではないかと考えます。

そのような非常にタフな一面を持つ町田がこの再開発計画を行うことにより人口減少や大災害のリスクを抱えるこの激動の時代の中で多摩地域をけん引していく都市に進化することを願っております。



Written by ひろまさ

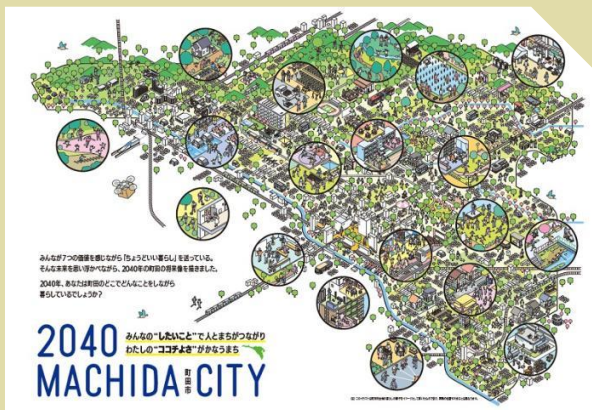
町田の将来を考える

～新たな集会所～

みなさま、初めまして！

私は沖縄県出身、桜美林大学1年生で「さがまち学生Club」に所属するきっかわと申します。平日は毎日通学で町田駅を利用しています！

今回は町田駅周辺の都市開発に関する調査を行い、この記事を作成いたしました。ぜひご覧ください！



カギを握る「C地区」とは？

町田市による町田駅周辺の開発計画では、町田駅周辺を大きく4つのエリアに分けて開発する事が構想されています。その中で「C地区」は、小田急線とJR横浜線の町田駅を繋ぐデッキの西側にあたります。

現在のC地区はデッキを隔てる壁や通路により、見通しが悪く、市民のための施設も多くありません。

町田市はこのC地区に、将来的には劇場やアートギャラリー等を導入し、世代を超えて人々が集う場としての交流の拠点づくりを計画しています。

今後の町田駅周辺の開発には、小田急線とJR横浜線の二つの町田駅、そしてその周辺の地区を繋ぐC地区がカギとなってくるに違いないでしょう。



赤い丸で囲まれているのがC地区である



C地区は交通の要だ！

「C地区」の現状は？



まほろ座MACHIDA

現在の町田駅周辺のC地区にあるパリオビルには、『まほろ座 MACHIDA』というモダンな雰囲気のあるライブ会場があり、大人なディナーとお酒を楽しむことができます。

現在、C地区で文化交流ができる場所は『まほろ座 MACHIDA』とパリオビルの3～5階のレンタルスペースで、ここでは不定期で展覧会が開催されています。

また、C地区に接しているデッキには問題があります。例えば、デッキの下は日の光が遮られ常に暗くなっています。また、デッキの上は小田急線町田駅とJR横浜線町田駅を繋ぐ通路の上にある壁により、C地区の様子が一目では分からない状態です。

C地区には交流の場が少ないのか...



今後の「C地区」は？

町田市は今後の町田駅周辺のC地区について、『町田の文化や学びを発信する“交流拠点”』、『世代を超えて、誰もが自由に学ぶことができる教育・文化施設』になるよう開発を進めています。その為、劇場やアートギャラリー等の交流の場が導入されることが期待されています。

私としては、町田中央図書館とは離れているC地区にも、小規模でつつまじやかな雰囲気のある図書館が設置されると嬉しいです。また、暇なときにふらりと立ち寄れるような明るく親しみやすい博物館やライブホールなんかもあると、C地区がより一層明るくなるかもしれません。



小規模でつつまじやかな図書館のイメージ



くつろげる場所は
欲しいよね。

紙面を作ってみて



東京と神奈川を
繋ぐ町田、
これからの発展に
期待大だ！

私がこの紙面を作成し感じたことは、町田駅は様々な面でさらなる進化を遂げる可能性を秘めているという事です。

C地区の空きスペースに建設されるであろう劇場やアートギャラリーは、文化交流の場として最適でしょう。また、デッキを作り直すことで、景観や見栄えの改善が見込めます。

更に多摩センターからのモノレールの延線により、町田駅は東京都と神奈川県を繋ぐ場所の一つとして一層重要になっていくことでしょう。このような再開発の可能性を持った町田駅は、今後も大きな発展が望めるのではないかと感じました。



町田市の開発計画を見るには、このQRコードから！

市では、今回のコラボレーションを
はじめとし、今後も様々な形で
町田駅周辺開発のプロモーション
に取り組んでまいります

事務局

町田市都市づくり部都市政策課
中心市街地開発推進室
042(851)7576